廿九日夕刊
磐城時報
福島縣石城郡平町紺屋町十四
編輯兼發行人　岡田弘成
印刷人　福島縣石城郡平町紺屋町十四
印刷所　加納活版所
福島縣石城郡平町紺屋町十四
發行所　磐城時報社
一部金貳錢一ヶ月金參拾錢
廣告料一行十四字詰金五十錢
▲日刊（日曜、祭日）休刊

町田坑火災遭難後報

二卸附近から死体續々發見

死体に縋つて泣く遺族　慘たる宮の澤坑口

内郷村磐城炭礦町田坑内火災は二十八日正午までの詳報は昨報の通りで、慘死者百三十七名中（昨報百三十九名は誤り）死体發見された者七十三名で引續き會社側並に坑夫組合側の決死隊三百余名が内郷斜坑より入坑し死体捜索に努めたが、坑内火災は殆んど鎮靜に歸したとは言ひその後密閉した竪坑直下を中心として猛烈な毒瓦斯（一酸化炭素）が發生し之を吸收すれば忽ちコロリと死亡する狀態で救助隊の平野清久外數名は救助作業中悶絶した等救助作業も意外の困難に遭遇し乍らも二十九日午前三時まで

樋川安平（二六）　大和田作次（四三）管原榮次郎（四二）大山儀平（三二）吉田留藏（五二）

右五名の死体を二卸から發見坑外に搬出した、然るに内郷斜坑からはそれ以上は到底進み得ぬ狀態になつたので二十九日午後三時から内郷坑を密閉し反對側にある宮の澤人道斜坑から空氣を送つて坑内毒瓦斯を緩和し之より救援隊が入坑する事になつた。午前四時二百余名の捜索隊が入坑した處、内郷坑より入坑したのとは違つて竪坑直下から千二百尺（二百間）位の箇所二卸附返まで進み得たのでその附近死体を捜索の結果午前七時頃から午前十時までの間二卸の二坑道から三坑道に至る箇所で

▲工作夫木村儀平（四〇）▲採炭夫伊藤健五郎（五五）▲木工管野彌市（二〇）▲職員矢島二郎（四五）▲同高野鶴治（五〇）▲坑夫佐藤達治（四五）樫村千代吉（三八）小豆畑藝吾（二一）山口友吉（三五）▲后山北平ヨシミ（二三）星ヨシノ（三〇）磯野タツ（四八）高橋サツイ（三四）吉田ハル（二八）▲支柱夫田口新（三四）佐々木盛（五五）渡邊和三郎（五〇）門脇小太郎（三一）皆川常作（四〇）岡部榮一郎（四〇）高田轍悟（四二）小松淺治（二八）河原末藏（二七）佐藤德平（三七）松本重吉（四二）圓谷七郎（二一）郡伊太郎（五五）小貫久松（五八）小貫末松（一八）

右二十九名の死体を發見し直ちに宮の澤斜坑から坑外に搬出した。

死体を迎へる千餘名の群衆

死体が續々と搬出される二十九日午前八時頃からは宮の澤斜坑附近には遺族、近親者其他約千名以上群がり泣く者わめく者等で意外の混亂を呈してゐるので平署の部長、巡査數十名は坑口から檢死場たる宮の澤クラブまで約五町余りの間三四間位の間隔に在つて警戒を行つた。搬出された死体は直ちに宮の澤クラブ合宿所に收容し醫師十數名が身体を昇汞水で拭ふた後平署近藤警部補が檢死し夫々遺族に引渡したが、或は坑口で夫の死体に泣き縋る妻、我子の死に樣を目のあたり眺めて卒倒する老婆等悲慘を極めた光景には到底面をそむけないわけにはいかず又檢死場から自宅までの間死体を擔つた擔荷の後にはたゞ泣き乍らついて行く家族等全く悲慘の極でこの世の事實とも思はれぬ光景である。死体は黑く焦げた者、水で白く爛れた者、薄赤く腫れ上つたものなど何れも目も當てられぬ死に方である。

坑内に水が溜り死體は沈んでゐる

捜索意外に困難

町田坑内は火災後竪坑を密閉した爲め毒瓦斯充滿してゐる事前項の通りであるが、二十七日午後一時火災後坑内の排水ポンプの運轉は全く停止した爲め既に三十余時間を經過した二十九日午前中には坑内二卸附近は三四尺の水が溜り死体捜索に非常な困難を感じてゐる、坑内は見渡す限りの水で捜索隊は安全燈の薄暗い燈火を唯一の便りに川のやうな魔の坑道を進んでゆく。その途中ボロのやうなものが浮いてゐると思つて引きあげて見るとそれは慘死者の死体で、顔面から頭まで身体全部が泥水に漬つてゐた見るも無慘な死体を發見するといふ始末でその捜索は全く困難を感じてゐる事は蓋し想像以上である。現在では竪坑直下附近は多少クスブつてゐる程度で火は恐らく消えたであらうと想像さるゝが今の處その箇所までは近づけず。死体全部を發見後更に消火隊を組織する事になつたが、坑内は坑木の燒失によつて落磐した所多く町田坑の復舊は容易な事ではないと

藏重警察部長遭難者の家族訪問

會社の扶助料は未決

藏重縣警察部長は二十九日午前十時町田坑に至り濱崎勞務課長等の案内で竪坑、内郷斜坑、宮ノ澤斜坑等を視察し發火原因を調査すべく當時の狀況を詳細に聽取した後遭難者百三十余名の居宅を一々訪問し弔慰金一封宛を贈つて見舞ひをなした。會社側では二十八日取敢へず百圓を見舞、弔祭の意味で各戸に贈與した外遺族扶助料を贈る可く勤續年數其他を取調べ幹部會を開いて決定した上東京本社に照介中で、本社では二十九日重役會を開き金額を決定する筈で多分明後日あたりには發表さるゝに至るであらうと。

慘死者はけふ火葬

慘死して發見された百余名の死体は家族に引渡した後二十九日午後一時から大字宮常光院境内に於て順次に火葬を行つてゐるが、追て盛大な社葬を行ふ筈で既に準備萬端を整へた。

不用意だつたのが遺憾

藏重警察部長談

藏重縣警察部長は別項の如く十九日町田坑火災のため來山して語る。「かゝる大椿時の勃發したことは實に遺憾に堪へない事で死者並にその遺族に對し滿腔の同情を表するこの椿事に直面して私は遺憾に堪へない事は、たとひ突發的の事件であり不可抗力であるとはいへ常日頃かゝる椿事を豫想してこれに對して應急の施設をなすに足る信念と用意の足らなかつたことである、炭礦である以上かゝる椿事は豫想されない事はないのだから會社當局にして注意を拂つてゐたら或はかくの如く多數の生靈を犧牲にせず濟んだかも知れない縣下全体の警官から集める義捐金は小額ではあるが同情の微意を表するため贈ることにした。

當時をしのび得る遭難者の話

昨報―配下の坑夫を救助せんとして町田坑火災後入坑し慘死した町田坑二卸採炭係長矢島二郎氏宅を訪へば、しづ子夫人は語る「廿七日は丁度中學校の入學試驗日なので夫は長男力を連れ平町に行つてゐましたが急を聞いてすぐに駈けつけたのです、常々から責任を非常に重んじてゐましたあの際ですから一人でも多く助けたいと危險と知りながら進んだので遂に燒死したものと思はれます、平素からもいつどんな變事が出來るかも知れないからその覺悟が必要であると言はれてゐましたし澤山の人々が死んだことですから夫が死んでくれて少しでも申譯がたちました」と語つてゐたが、矢島氏は夫人しづ子（四二）さんとの間には福島縣立磐城高等女學校三年生ひさ（一八）さんをかしらに力（一三）三郎（八つ）まさ子（六つ）洋三（三つ）さんの五人の子福者である、更に決死隊の一人として坪下發火場所から約百間の奥まで進み二十八日午前二時頃毒瓦斯のため倒れ幸ふじて大友組の人夫に救助された高坂坑採炭係長鈴木宣氏は語る「廿八日午前二時頃矢島（殉職者）と共に二卸しの方に進み二坑道のカーヴに差しかつた際猛烈なアト瓦斯（一酸化炭素）に襲はれたのです、前方五六間の處には矢島君等二名の者が懷中電燈を手にしたまゝうつ伏しに倒れてゐるのを發見したので救助したいと思ひ焦慮したのでしたが自分もそのまゝそこへ倒れてしまつたのです、もう斜坑方面からは危險で進めなく手を引く外なくなつたのです。

本間重兵衛水戸で捕はれ

平から護送

過般白河刑務所を脱走し一ヶ月余で捕はれ今度は福島刑務所を見事に破つて逃走した稀代の脱獄囚人本間重兵衛（三一）は二十九日午前五時茨城縣久慈郡某驛から上り列車に乘り込み同五十分水戸驛に下車した處を福島警察署から水戸驛に出張して警戒中であつた星刑事外一名に捕はれ平着午前十時九分で下車し同十一時四十五分磐越線列車で福島に護送された。

驚いた!!!
こうまで安いとは
―加納活版所の印刷物!!

簡易保險について懇談

きのふ平局で

平郵便局管内の簡易保険契約数は

平町七六五一件、好間一九三一件、飯野七九六件、神谷六九〇件、平窪二七一件、高久二〇八件

で人口千人に之を對比すれば

平三〇四人、飯野二七四人、神谷二〇五人、好間一八七人

平窪一八七人、高久八七人

である、而して平局の成績は仙臺遞信局管内で幕下に下らぬ好成績を收めてゐるが、尚ほこの上加入者を增やす余地があるといふので新任田村局長は二十八日午前十時から前記各町村各種團体の代表者を平局に集め加入增加に就て懇談する處があつた

新學期の御用意

ノートと學生カバン

ノート　壹百種

カバン　五十種

高級萬年筆各種

マルトモ㊀柴田書店

投票用紙

「模擬平市會議員」

カシキモノ貸衣裳

平古館冶町一

茗荷屋貸衣裳店

セキドメタンキリ

鎭咳往痰

名醫高木六山泰治先生の證明に係る此藥は上等動物やの醇良なる元藥を以て有効に合劑し萬人の體質に適ふやう安全に調製したれば如何なる惡性の咳も恐るるに足らず效果と共に咽喉を潤ほしなほしむる無比の貴重藥也

主効　咳　感冒　喘息　胃病　腦充血　肺病　氣管支　喉頭　臭氣咳　血の混る咳　百日咳　小兒咳

定價　廿錢　五十錢　一圓　參十錢

本家　東京深川高橋通　比田東元堂

振替東京三五〇七二

▼申込カワセ又は振替▼全國藥店にあり▲

特約店　平町四丁目　關内藥局　電話四〇番

模擬市會　市會議員　得票

四四七二票　高橋亀松氏

四〇七三票　井上貞次郎氏

◎(以下略)

一五三七票	鈴木昌雄氏	一五三六票	馬目雅治氏	一五二〇票	鈴木邦三郎氏	一五一三票	渡邊源吉氏	一五一一票	高倉精一氏
一五〇九票	馬目武之助氏	一四九八票	大森勇氏	一四八一票	萩原義雄氏	一四七〇票	千葉彦治氏	一四六九票	山崎徳次郎氏
一四六七票	多田井笑次郎氏	一四六〇票	中野康平氏	一四五〇票	小松茂氏	一四四七票	鷹崎順平氏	一四四六票	草野正見氏
一四四五票	關内喜久次郎氏	一四四四票	永瀬隆藏氏	一四四三票	眞木延太郎氏	一四四二票	坂本桓氏	一四四一票	諸橋元三郎氏
一四四〇票	諸橋正次氏	一四三九票	山田盤麿氏	一四三八票	木田藤次郎氏	一四三七票	三井吉左氏	一四三六票	横山顯吉氏
一四三五票	熊谷龍輔氏	一四三四票	蓮沼謙次郎氏	一四三三票	關内正一氏	一四三二票	須田甚太郎氏	一四三一票	鈴木武雄氏
一四三〇票	保坂龜八郎氏	一四二九票	和老原章四郎氏	一四二八票	吉田喜代治氏	一四二七票	原精一氏	一四二六票	杉本榮氏
一四二五票	吉村安次郎氏	一四二四票	齋藤英三郎氏	一四二三票	白井一郎氏	一四二二票	山崎清三氏	一四二一票	中野甲藏氏
一四二〇票	諸橋守次氏	一四一九票	佐藤武之氏	一四一八票	三森虎雄氏	一四一七票	山野邊東次郎氏	一四一六票	瀧澤俊平氏
一四一五票	綠川喜三郎氏	一四一四票	猪狩庄平氏	一四一三票	柴田徳二氏	一四一二票	阿部政右衛門氏	一四一一票	櫻井清氏
一四一〇票	吉田寅之輔氏								

花は櫻木

料理は

イワキ

平町縣社通り

美味で評判の

イワキ食堂

電話四六〇番

金牌

優秀品の證明

受領

草野染工場

磐城平町

電話三四八番

婦人病の血の道の妙藥

美容にも、強壯の効著大

血をふやし肉を肥やす

スポン

定價壹圓・貳圓・德用五圓

代理店

山野邊藥局

平町五丁目角

鐵筋コンクリート

住宅、商店、事務所

設計監督請負

平町田町

丸山喜一郎

電話六二番

新治淋藥

ラウタール

一、其偉効顯著なるに實驗者は驚く

一、眞に淋病、消渇の特効新藥なり

一、惱み苦しむもの直ちに試みよ、必ず救はれん

定價　三圓也　重症用　拾圓

代理店　山野邊藥局

平町五丁目角

滋養、强壯劑として愈々好評

偉大なる藥酒

粟守酒

朝の一盃は精力の根原、晩の一盃は休眠の助力

粟守酒特約店　大平屋藥店

代價八日分壹圓九十錢　平町一丁目　電六四二

三月雛人形大賣出し

大安賣　御ヒナ人形、小道具

平町四丁目(電一五七番)　菅野屋

三月人形　小道具一式

大賣出し

平町二丁目(電話六四九番)　いづや

開業十五週年念福袋附特價大賣出し

ヒナ人形小道具一式

三月廿六日から四月一日迄七日間

一圓毎に福袋一袋宛進呈

學生カバン帽子各種　陳野洋品店　平町二丁目

ヒナ人形及小道具類

見易く買易い正札附き

加藤幸吉商店　平町三丁目

久月總本家特製

雛人形　雛道具　大賣出し

平町三丁目　金太郎玩具店

ヒナ人形ハ

平町四丁目角

フクタヤふとん店ヘ

電話七一二番